下呂農林事務所の普及活動状況　　令和６年６月 30 日現在

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■下呂市スイートコーン研究会　「南飛騨コーン」目揃え会を開催

【目揃え会の様子】

６月 28 日（金）、下呂市萩原町羽根の生産者宅で下呂市スイートコーン研究会（会員：14 名）の目揃え会が開催され、生産者をはじめ、ＪＡ、下呂市、農林事務所の担当者 15 名が参加しました。

研究会では、朝採りし、２Ｌ以上の大きさで糖度が 15 度以上のものを「南飛騨コーン」というブランド名で、地元の農産物直売所や道の駅などで販売を予定しています。

目揃え会では、農業普及課から出荷基準及び生産基準の説明を行い、基準を満たしているものだけを「南飛騨コーン」として出荷するよう徹底を図りました。その後、昨年発生した事故品（虫害や過熟など）を減らすための対策や今後の栽培管理（追肥、病害虫防除など）について指導を行いました。また、農林事務所の鳥獣被害対策専門指導員からは、下呂市における鳥獣被害の状況や侵入防止柵の設置などの対策について情報提供を行いました。

生産者からは、農薬の使用に関する質問やシールが剥がれない貼り方、鳥獣被害に困っている状況など、活発な意見交換が行われました。また、今年度から「南飛騨コーン」の認知度向上のため、販売する商品に「南飛騨コーン・生産者名・生産地・生産者の連絡先」が明記されたシールを貼ることから、各生産者が作製したシールの確認も行いました。

農業普及課では、今後も高品質なスイートコーンの生産・販売に向け、栽培技術の指導と販売支援を行っていきます。

（地域支援係）

地域資源を活かした農村づくり

■えごま　大学生を対象とした体験学習会を開催

【えごまの移植体験の様子】

６月 16 日（日）、下呂市小坂町のえごまの郷及びえごまの栽培ほ場において、愛知淑徳大学の学生（21 名）を対象とした体験学習会を開催しました。

この学習会は、昔から地元で栽培され、五平餅のたれやお菓子などとして食べられてきたえごまの歴史や栽培方法などを理解してもらい、えごまの普及・振興を図ることを目的に農林事務所が企画しました。

学習会の講師は、飛騨小坂あぶらえ生産組合の生産者と農業普及課が務め、えごまの歴史や栽培方法などの説明と、収穫したえごまの焙煎工程の見学を行いました。また、栽培ほ場においては、苗を１本１本手で植える作業も体験してもらいました。

参加した大学生からは、「移植作業はとても貴重な体験だった。」「えごまが商品になるまでに様々な手間がかかっていることがよく分かった。」などの意見があり、有意義な体験会となりました。

農業普及課では、今後も生産者や関係機関と連携し、下呂市のえごまの栽培指導や販売支援を行っていきます。

（地域支援係）